

卒業生による国家試験対策 学生別コメントまとめ

2026/2/8

- 卒業生（敬称略）：大江、大崎、小野田、草別、南
- 欠席者：高田、富岡、上村、大森（無断）

トップ2

上野 (Ueno)

- 現状・課題**
 - 最も心配な学生**: 合格が危ぶまれる。知識の暗記が苦手で、漢字の読み間違いも重症。
 - 学習の非効率さ**: ノートまとめが整理されておらず、後で見返しても活用できない状態。問題を解くのに非常に時間がかかる。
 - 基礎力不足**: 12脳神経などの基礎知識を引き出すのにも時間がかかる。
- 対策**: 問題量を減らしても、一つ一つ丁寧に理解・整理させる必要がある（キャパオーバーを起こしている）。教える際は最小限のワードで混乱させないようにする必要がある。

松村 (Matsumura)

- 現状・課題**
 - 理解不足と「分かったふり」**: 返事は良いが、実際には理解していないことが多い（「分かっています風」）。知識が定着しておらず、点数に結びつかない。
 - 基礎知識の欠落**: ROM、神経支配など、基礎的な部分に穴が多い。
 - 学習スタイル**: 問題を解くスピードが遅い。知識を丸暗記しようとしており、応用が効かない。知識の引き出し方が下手。

以下団子

田中 (Tanaka)

- 現状・課題**
 - 知識レベル**: 出口君と比較すると若干知識量が多い。以前（1月）に比べると知識は増えており、自信もついてきている。
 - 理解の質**: 知識はあるが、説明力・理解力はまだ乏しい。応用問題（問題をいじられた時）や、疾患と症状の結びつけに弱い。
 - 苦手分野**: 解剖・生理学の正答率が低い。心電図が苦手。
 - 曖昧な記憶**: 数字（可動域など）を「大体これくらい」というニュアンスで覚えているため、正確性に欠ける。

出口 (Deguchi)

- 現状・課題**
 - イメージ力の欠如**: 動作の遠心性・求心性などのイメージが湧きにくい。実際に体を使って考えるよう指導が必要。
 - 苦手分野**: 義肢装具学が全くダメ。解剖学（橈側・尺側など）の位置関係が怪しい。

- **知識レベル:** 田中君と近いレベル。知識不足な点がある。
- **曖昧な記憶:** 田中君同様、数字や図をニュアンスで覚えているため、間違える可能性がある。

深谷 (Mitani)

- **現状・課題**

- **知識の偏りと「蓋」:** 知識量は多い（有山さんの次くらい）が、興味のない分野・苦手な分野（義肢装具のインソールなど）には「蓋」をして見ようとしない。
- **見せかけの理解:** 器用で回転が速いが、答えを丸暗記しているだけで理屈を理解していないことがある。「なぜそうなるか」を突き詰めると答えられない。
- **学習スタイル:** 問題を解くのは非常に速い。間違えても次へ行く切り替えの早さはあるが、雑でもある。
- **基礎:** 基本軸・移動軸などの基礎を覚えていないことがある。
- **実地問題の弱さ:** 永井君と同様、専門の実地問題の点数が低い（120分の45～48点程度）。応用が利かない。

長井 (Nagai)

- **現状・課題**

- **内臓系・解剖生理学の弱さ:** 特に胃・腸の解剖が「壊滅的」。消化・吸収・排泄系の正答率が低い。「二重神経支配」も押さえていない。小腸・大腸の順序が答えられない等の基礎的な知識欠落が見られる。
- **理解力・学習姿勢:** コツコツと知識を増やしており、説明すれば理解できる素養はある。自分の苦手範囲を自覚している。
- **得意分野:** 心電図、筋の作用、障害系は比較的できている。
- **総評:** 苦手な内臓系などを詰め直せば、合格ラインに届く可能性はある（「頑張ればいける」）。

希望あり

有山 (Ariyama)

- **現状・課題**

- **知識量:** メンバー内でトップクラス。合格圏内（「本命」）。
- **メンタル面の課題:** 最大の課題は「自信がない」こと。正解を選んでいるにも関わらず、見直して答えを変えてしまい、損している。
- **詰めが甘い:** 説明の語尾が自信なさげになる。
- **応用力:** 周辺知識と繋げて答える応用力がまだ課題。
- **対策:** 自信を持たせることが最優先。他人に教える（先生役）ことで自信をつけるのが良い。